

# ホタテガイ採苗速報

(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

青森県 水産振興課

間引き後の袋や間引かれた稚貝は大切に活用しましょう

## 1 令和4年の親貝数

水産総合研究所が推定した養殖親貝は、令和3年10月1日の実態調査時の保有数量から今年2月末までの出荷数量を引いて、全湾で約8,900万枚と算出されました。その比率は東湾で8割、西湾で2割となっています。

環境が悪い年でも採苗器に2万個/袋付着させるためには1億4,000万枚のホタテガイ親貝が必要とされますが、令和4年の親貝数は必要数の64%に留まっています。

## 2 西湾の採苗器への付着数が少なかった要因

- ①親貝数が少なかったこと
- ②東湾の親貝に大規模産卵が見られなかったため、全湾のラーバ数が少なかったこと
- ③ラーバの出現時期に強いヤマセがほとんど吹かなかったため(図1)、東湾からラーバが供給されなかったこと

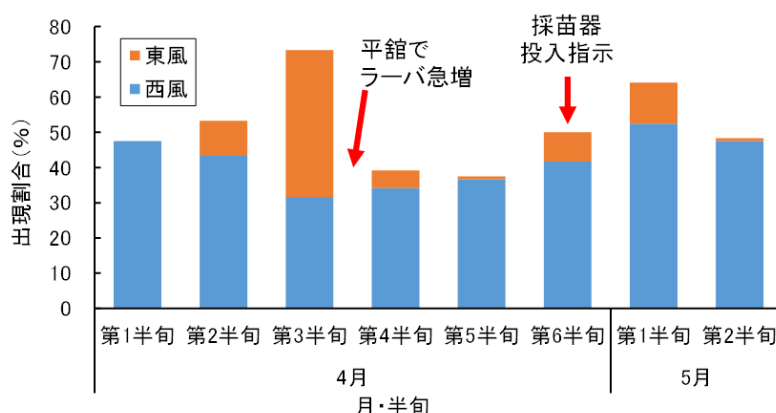


図1 東湾ブイにおける2022年4月～5月上旬の半旬別の西風と東風(5m/s以上)の出現割合  
※半旬別の総観測データ数は、いずれもN=120。

## 3 今後の対処

- ①東湾の間引き後の袋や間引かれた稚貝は、西湾で有効活用できるよう、東湾から融通してもらいましょう。
  - 間引き後の袋には稚貝が付着しているので、新たな袋の中に入れ稚貝を有効活用しましょう。
  - 間引かれた稚貝は再付着するので、新たな採苗器に収容し、稚貝を養成しましょう。
- ②東湾では稚貝採取の目処がつかないと融通できません。西湾では少ないながらも採苗器に稚貝が付着していることから、まず自分の採苗器から稚貝を採りましょう。
- ③個人または漁協間で、採苗器や稚貝採取時の2番子、秋の稚貝分散時の余剰貝を融通してもらいましょう。

